

# 県南・両毛版

## 神倉神社住民らが再建

### 総ヒノキ、今夜遷座祭



完成した新しい本殿と荒川委員長（中央）ら

【栃木】藤岡町蛭沼の神倉神社で、2014年12月に全焼した本殿の再建が地元蛭沼区の住民らによって進められ、このほど完成した。「本殿がないのは寂しい」と建設委員会（荒川紀男委員長）を組織し、区内から寄付金を募るなどして2年7カ月の悲願を果たした。8日夜に遷座祭、9日にも神事やおはやし奉納などを行い完成を祝う。

（江口美佐子）

同神社は宮司が常駐していない小さな神社。蛭沼区が管理し、区内約150戸

三井 樹君 (佐野市大伏東小)

ほくは、車やさんになりたいです。多くの人にかっこいい車にのってほしい、えがおをたくさん見たいと思ったからです。

- 足利総局  
TEL. 0284(40)1023  
FAX. 0284(40)1024
- 小山総局  
TEL. 0285(30)1123  
FAX. 0285(30)1124
- 佐野支局  
TEL. 0283(20)1123  
FAX. 0283(20)1124
- 栃木支局  
TEL. 0282(20)1023  
FAX. 0282(20)1024

記念日紙面販売中

デジタル版見放題 受付時間 9時～17時

028-625-1102

が氏子になっている。毎年7月最終土曜に夏祭りを開催し、住民に親しまれてきたが、本殿を全焼。近隣の神社2棟に放火し全半焼させたとして逮捕された男性が、関与をほのめかしている。

【本殿が全焼したのは大】

「本殿が全焼したのは大変ショックだった」と同委員会メンバーら。奇跡的に焼失を免れた神体を、本殿隣のみこし小屋を仮宮として収めていた。しかし、本殿がないのはおかしな感じが、区内各地から代表計20人を選出して建設委員会を発足。今年2月に着工し、6月1日に完成した。

新しい本殿は総ヒノキ造り、入り母屋化粧造りの平屋約30平方メートル。神代で太工の海老沼孝允さん(73)が手掛け、本殿周辺の砂利敷きや縁石の工事は委員会メンバーらが作業し仕上げた。

### 市長と直接意見交換

#### 栃木ふれあいトーク始まる



【栃木】鈴木俊美市長をはじめ市執行部が市内各地域に出向き、市民と意見交換を行う「まちづくり懇談会ふれあいトーク」がこのほど、赤津小で始まった。10月23日まで19会場で開催される。

市長らが市の重要施策を市民に直接説明することで周知を図り、市民の意見などを直接市政に反映させることが目的。2011年度から実施され、本年度で7

年目を迎える。初回は市民54人が出席した。冒頭で市執行部は、市内の公共施設の複合化や統合を図る市公共施設適正配置計画などの概要を説明。その後のフリートークで市民と意見交換を行った。

参加者は「明るく使いやすい公共施設にしてほしい」「インシシ対策として処理場を造ってほしい」「道路を補修してほしい」などと要望。鈴木市長は「具体的に場所を指定していただいたものに関しては、今後市で検討していく」と応じた。

（斎藤寛人）

荒川委員長(77)は「何とか夏祭りに間に合わせた」と再建を進めてきた。完成できてほっとしている。お祭りの時だけではなく、ミニニティーの場として、区内の人たちにも集まってほしい。見守りにもなると思う」と話している。

### 初谷建設を認定

#### 県「愛ロードとちぎ」



【佐野】県が管理する道路や河川、公園での、住民

「愛ロードとちぎ」実施団体認定は県内で216、市内で8団体目。今後は年6回以上を自発に、船津川町の主要地方道佐野行田線200メートル区間で、清掃や除草などのボランティア活動を行うっていく。

同社栃木事業所の横塚所長は「安全で快適な道路環境の維持・向上に努めていきたい」、県安足土木事務所西川能文所長は「美化ボランティア活動はありがたい。県としてもサポートしていく」と話した。

現在は亜細亜美術協会を管理することを務める。

きょうから栃木で